

## 「EDR における調整値の変化を分析しよう！」

座長 医療法人社団将道会総合南東北病院  
太田 運良

CR 装置において最も特徴的な機能である EDR (Exposure Data Recognizer: 自動感度補正機能) は、撮影条件の振れに対して適切な濃度、コントラストになるように自動的に画像調整する機能です。手術場や救急撮影などのシビアな状況における撮影条件決定においては細かい調整を気にせず診断能の高い X 線画像を診療サイドに提供できる為非常に便利ですが、FCR の場合照射野内のヒストグラムを解析して補正する特徴がゆえに入射線量や被写体特性、撮影整位が変化すると諸調整値が大きく変わります、脊椎機能撮影 (側面像前後屈) などの画像内容は変わるが X 線入射方向は変わらない撮影では調整値の変化が逆に邪魔になる場合があります。

今回は頸椎側面機能撮影における L 値の変化はなぜおきてしまうのか、を分析し発表していただきます。

(発表者)

富士フィルムメディカル社製 FCR ユーザー  
国立病院機構西多賀病院放射線科 坂爪 瑞樹

また、今回の supplement はマンモグラフィーの QC について医療法人財団厚生会仙台厚生病院放射線部 太田久恵さんに紹介していただきます、マンモグラフィーの QC は学会基準や施設おのおのの基準があり、現在研究会等においてもその方法について議論がなされています、今回は仙台厚生病院の QC 方法を中心にご紹介いただきます、マンモグラフィー撮影・管理に従事されている方々の積極的な参加と活発な意見を期待します。

※例年 CR メーカー別に 2 人の演者 + supplement 1 人という形で発表していましたが、1 時間の枠で 3 人の演者に発表するのは聞き手の理解の混乱を招くとの指摘があった事、またその他諸事情により今年は FCR ユーザー 1 名のプレゼンテーションとさせていただきます、ご了承ください。